

宮崎照宣東北大学教授が応用物理学会「第9回業績賞」受賞



応用物理学会「第9回応用物理学会業績賞」の受賞者の一人として、宮崎照宣(みやざき てるのぶ)東北大学原子分子材料科学高等研究機構(WPI)教授が選ばれました。受賞件名は「室温トンネル磁気抵抗素子の先駆的研究」です。「応用物理学会業績賞」は、当該研究分野において、新しい発見、発明、理論、実験等を通して、その成果の学問分野や産業分野への貢献が特別大きな研究業績をあげた研究者に授与される賞です。

宮崎照宣教授は、1994年に室温で18%もの変化を示すトンネル磁気抵抗効果を世界に先駆けて発見しました。この発見を契機に、世界の多くの企業や研究機関でトンネル磁気抵抗素子の研究が精力的に行われ、現在ではハードディスク用磁気ヘッドや固体不揮発性メモリ(MRAM)へと応用され実用化されています。また、トンネル磁気抵抗素子の研究開発は、現在スピントロニクスと呼ばれる新しい学術領域における中心的課題として位置づけられています。

授賞式は3月30日茨城県つくば市の筑波大学で開催された2009年応用物理学会春季学術講演会で行われました。